

令和4年度第1回沼津市環境活動推進協議会

1. 開催概要

- (1) 日 時 令和4年8月31日(水) 9:55~11:10
- (2) 場 所 市役所8階802会議室
- (3) 出席者 委 員：6人(栗原座長、服部委員、芳野委員、石川委員、渡辺委員、柳田委員)
事務局：3人(環境政策課 勝又、安室、重野)
- (4) 議題及び意見要旨

【議題1 環境施策の推進状況について】

事務局説明

- ・「第2次環境基本計画(令和3年3月)」の目標及び施策の現状について報告したほか、脱炭素ロードマップの策定等の今後の施策展望について説明。

委員意見

- ・基本計画の記載内容には古い部分があるため、今後の中間見直しによってアップデートを図るべきである。見直しの時期についても、2030年の削減目標達成に向けて速やかに行うべきである。
- ・ゼロカーボンに向けた施策について、排出量の削減だけでなく、早成樹やブルーカーボン等の吸収源の拡大も施策に取り入れるべきである。
- ・ゼロカーボンを目指す上では、まずは一般家庭に比して大規模な蓄電が可能な事業所や施設における再エネ導入に注力すべきである。
- ・脱炭素ロードマップの例に記載されている「自転車等の利用促進」については、走行環境の整備も必要である。また同様に記載のある公共施設等の再生可能エネルギーの導入や緑化の推進についても、これまでの小規模な導入にとどまらない、本格的な取組が必要である。

【議題2 環境を大切に作る人づくり(環境教育)について】

事務局説明

- ・「環境を大切に作る人づくり推進事業」における各種環境教育施策について報告。次年度以降の開催案について委員の提案を求める。

委員意見

- ・各連合自治会に環境活動の啓発等を担当する役員を選出していただいていた時期と比較して、地域みんなで環境に取り組むという要素が弱まっている。
- ・環境に興味のある同じ人が繰り返し参加するような講演会だけでなく、環境意識の高い市民がリーダーとして環境問題を牽引できるステップを作ったり、自治会単位で一般の市民を集めて話をするような機会が必要。
- ・今後の開催テーマとして、気候変動による災害を扱い、学校のプール等を使用して浸水被害を体験した後に、その原因である地球温暖化への学びにつなげるのはどうか。また、循環型社会をテーマに、食品ロスを減らすクッキングコンテストのような、環境問題に関心の薄い層が楽しみながら、環境問題を考えるきっかけ作りになる内容が良い。

【その他】

委員意見

- ・提言事項等については、今後策定する諸計画や次回協議会、環境審議会等へきちんと反映されるようにしていく必要がある。
- ・環境に興味がある市民が少ない中で、いかに施策を明確に見える化させ、市民にインセンティブを与えられるかを考えなければならない。

2. 議事録

司会	<p>定刻より早いですが、皆さまお集まりいただきましたので、これより令和4年度第1回沼津市環境活動推進協議会を開会いたします。私は本日の司会進行を務めます、重野と申します。よろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>まず初めに、お手元の資料の確認をいたします。</p>
勝又課長	<p style="text-align: center;"><<資料確認>></p> <p>それでは次に、環境政策課長の勝又からご挨拶申し上げます。</p> <p>皆さまおはようございます。</p> <p>本日はお忙しい中、今年度第1回の沼津市環境活動推進協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また皆さまがたにおかれましては、本協議会の委員として、日頃から本市の環境施策にご理解・ご協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。</p> <p>さて、静岡県内では6月の熱中症による救急搬送者が過去10年で最多であり、また、この7月には豪雨による河川の氾濫や床上浸水の被害が県内でも起きていたということで、近年の異常気象はとどまるどころを知らない状態です。</p> <p>この異常気象には、地球温暖化による影響があると言われており、温暖化対策への取組が全世界的に急務となっております。</p> <p>このような中、本市では今年3月に「ゼロカーボンシティ NUMAZU2050」の表明を行い、2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロに向け、再生可能エネルギーの導入や、再エネや省資源、資源循環の促進、市民の方々に向けては環境学習の機会の提供など、積極的な施策展開を図っているところです。</p> <p>もちろん、環境問題は地球温暖化のほかにもマイクロプラスチック問題や食品ロスといったごみ問題をはじめとして多岐に渡るところですが、そのどれもが行政、市民、事業者の連携による日々の取組みが必要になってくるものです。</p> <p>当課といたしましても、今後の環境施策の運営にあたり、広く皆さまのご意見・ご提案を賜り、取り入れていくように努めて参りたいと考えております。</p> <p>本協議会は広く環境施策について自由に意見交換をしあう懇談会であり、今回いただいたご意見・ご提案につきましては、施策の円滑な運営に反映して参りたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>次に本協議会の委員の変更についてお知らせいたします。</p>
渡辺委員	<p>昨年7月にお集まりいただいて以降、3名の委員の変更がございます。</p>
司会	<p>東京電力パワーグリッド株式会社 静岡総支社より、望月 啓一様に代わり、令和3年10月から渡辺 政彦様に委員をお願いしております。</p>
渡辺委員	<p>渡辺です。よろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>次に、静岡ガス株式会社 東部支社より、薩川 達彦様に代わり、令和4年1月から大川 信二様に委員をお願いしております。なお、大川様は本日ご欠席です。</p>
司会	<p>最後に、南駿農業協同組合より、大嶽 眞理子様に代わり、令和4年4月から大嶽 由紀江様に委員をお願いしております。なお、大嶽様は本日ご欠席です。</p>
司会	<p>それでは、前回実際にお集まりいただいてから1年以上が経過しており、また今回初めてご出席されている委員の方もいらっしゃると思いますので、改めて皆さまに一言ずつご挨拶いただければと存じます。それでは、栗原座長から順にお願いいたします。</p>
司会	<p style="text-align: center;"><<委員挨拶、自己紹介>></p> <p>皆さまありがとうございました。</p>

<p>栗原座長</p>	<p>それでは議事に入ります。進行は昨年度に引き続き、座長の栗原様にお願いしたいと思います。それでは座長、よろしく願いいたします。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>まず、二つの議題がありますが、それぞれ事務局から説明いただき、次にそれに対して質問していただき、そしてそれについて意見を言っていただくという順番でやっていきたいと思っておりますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。</p> <p>それでは「議題1 環境施策の推進状況」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>初めに自己紹介をさせていただきます。環境政策課の課長補佐の安室と申します。私はこの4月から課長補佐になり、昨年度と一昨年度は環境保全という、主に騒音、振動、悪臭、大気といった公害を扱う部署の係長をやっております、今年度から課長補佐になり、この会にも出席をさせていただいております。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは初めに、資料の「議題1 環境施策の推進状況について」に沿って説明をさせていただきます。</p> <p>初めに1枚めくりますと、計画全体のロードマップと書かれているものがあります。これは昨年の令和3年3月に市で更新した第2次環境基本計画についての全体像を示した図になります。</p> <p>ここで見ていただきますと、沼津市環境基本計画というのが2021年度、一番左側にあり、その右側に4つの大きな目標があります。上から、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会、環境教育。これが沼津市の環境のこれからの大きな柱として分類しています。</p> <p>そしてその右側にそれぞれ目標を掲げております。脱炭素社会については環境目標1「低炭素で暮らしやすいまち」、目標2「気候変動に適応するまち」、循環型社会では「資源が循環するまち」、自然共生社会では「自然や豊かな生態系が持続するまち」、「そして快適な生活環境のまち」、環境教育では「環境を大切に作る人づくり」。</p> <p>これらの目標に従い、その下にそれぞれ具体的に何をやっていくかということで、項目と重点取組を記載しています。時系列でいくと2021年に策定して、現時点では2050年度を一つの目標としています。その下、望ましい環境像と書かれています。「雄大な富士を仰ぐ 美しい海岸線 緑豊かな山々と恵みの川 かけがえのない自然と そこに暮らす いのちを守り 未来につなぐまち 沼津」ということで、ここは8階で眺めがいいですから見ていただくと、山があつて、海があつて。北側に行けば富士山、狩野川、愛鷹山があつてということで、今あるこの自然、人間の営みを含め、そういったものを少なくとも2050年までの将来にわたって持続し、もっと良いものにしていくということで計画を立てている。その中で本日重点的に説明をさせていただくのが、資料1枚目、「ゼロカーボンシティ NUMAZU2050」。</p> <p>これは国が脱炭素、カーボンニュートラルをやるという宣言をしたものに合わせて表明をしたものです。先ほど服部委員（の挨拶）からも、県内の市町でも多くの市町が表明をしたと。沼津市もちょっと遅めではありましたが、昨年度末に表明をさせていただきました。</p> <p>目指しますとは言ってみたものの、じゃあどうするかということで、資料を2枚めくっていただくと、その後に環境基本計画の抜粋を続けて書いているんですが、ここでは沼津市の現状整理をしています。</p> <p>3枚目の「再生可能エネルギーの導入ポテンシャル量」。沼津市に現在導入している再エ</p>

ネ以外にも、これくらいのポテンシャルがあるということをグラフ化しているものです。日本全国同じような状況にあるので、沼津市だけが突出してこれがすごい、劣っているということではないのですが、例えば太陽光発電とか風力発電、一番下は地中熱利用と、こういったものにポテンシャルがあります、という表になります。

その下にいくと「再生可能エネルギーの発電利用」ということで、徐々に太陽光発電ですとか、いわゆる再エネについては利用量が上がってきてはいます。ただこれをもっと上げていかないと、2050年のゼロカーボン達成するには到底及ばないという数字になっている。

時間が無いので項目だけ説明しますが、もう1枚めくって、「5-4 削減目標」とある。CO2排出量の話になるが、2030年の中期目標として、現計画では28%削減するという目標を立てている。ただ、国が掲げたカーボンニュートラルの計画では、2030年までに46%削減するという目標を掲げているので、これから計画を見直して、少なくとも国と同じくらいまでは削減していくという具体的な計画を立てていかなければならないと考えています。

その下の長期目標では2050年度までにゼロを目指す、と国と市もゼロカーボンを宣言しているのだからここを目指すということになります。基準年度の平成25年度から95%削減するというので、途方もない数字にはなってきますが、これを何とか達成していくということで現在色々な計画の策定を進めているところです。

この資料にはないのですが、国の資料に沼津市の令和2年度の再エネ導入率という数字があります。FITベースになるが、沼津市全域で使っている電力量に対して約4.4%が再エネです、という数字。非常に低い数字です。県平均で約17%、国も同じくらいです。県平均と比べるとだいぶ低調な数字。県内の23市の中では下から2番目の低さということで、今後課題が残るという状況。先ほど服部委員（の挨拶）から、沼津市はトップランナーというお話をいただいたが、確かにごみの分別ですとか、全国に先駆けてやってきた部分はあります。そこは誇るべきところだと我々も考えているところですが、こと脱炭素に関しては、だいぶ遅れをとっている状況です。

49ページ「第6節 地球温暖化・緩和に関する対策・施策」。沼津市として具体的に何を進めていくかについて書かせていただいています。「6-1 総合的な地球温暖化対策」はどちらかというと行政がやっていくものを書いたものです。「6-2 低炭素な交通の普及とまちづくり」、これからおそらく車もEV化、水素含めて再エネへのシフトを急激にしていくということがあります。それだけではなく、まちづくり自体も人口が減っていく中で、コンパクトなまちも目指していかなければならない。沼津市では駅の高架事業が進んでおり、それに合わせて再開発も進んでいるので、そういった事業を含め、これから作る新しい建物、まちづくりについては環境にも意識して推進していくということになるかと思う。

50ページ、「6-3 省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの普及」、これは具体的に沼津市がこれから進めていかなければならない項目を書いたものです。1番にはやはり太陽光発電ということになるかと思います。風力発電や、バイオマスとか、色々な項目がありますがすけれども、市民に何かをやっていただくという場合は、屋根置き太陽光発電の普及が一番現実的と考えています。ただ、こういったものはものすごく設備投資がかかります。やってくださいと言って、分かりました、ということではないので、沼津市としてそれを援助するような補助金であるとか、色々なところで市民にはうまく説明していく必要があるかと思っています。

もう一点が事業者。沼津市にも色々な大きい事業者さんがいます。そういった工場とか

	<p>事業所についても協力を仰いで、太陽光発電やバイオマス、営業車のEV化といったものを進めていく必要があると考えています。</p> <p>これらの事業を進めていく中で、2050年を目指していくことになると思いますが、国が何兆円という規模のお金をかけて、色々な補助金を出したりとか、自治体に向けても計画の策定費用とか色々なものが動いている中で、沼津市もある意味乗り遅れないように、国・県と一緒に進めていかなければならないと考えています。</p> <p>特に我々行政は公共施設をたくさん持っていますので、その再エネ化とか、それから公用車も何十台とありますので、そのEV化といったことを率先して始めていくことが求められています。</p> <p>最後にA3の紙がありますが、実は現在、再生可能エネルギーの導入戦略という計画の策定をしています。その最終的な脱炭素ロードマップのイメージとして書かせていただいております。方針としては交通やまちづくり、省エネや再エネの普及ということで、この方針に向かって市民、事業者、観光で訪れた滞在者、それから市（公共事業）、それぞれの役割を決めて具体的に何をやっていくのか、そして2030年度までにどのくらいの量のCO2を削減し、2050年度までにゼロを目指す。こういった計画表を今策定している最中です。</p> <p>この計画表もただ作っただけでは絵に描いた餅になってしまうので、具体的に何をやっていくかについて計画を進めながら、同時にこれ自体も作っていく必要があると思います。</p> <p>今日は東京電力の渡辺さんがお越しいただいています。実は渡辺さんといろんなご相談をさせていただき、東京電力として沼津市と関わっていただいております。何かできないかということで、色々な計画について進めております。</p> <p>今日は脱炭素の部分だけをかいつまんで説明しましたが、最終的には地球温暖化を防ぐということが、それぞれの分野、自然にも関わってくると思いますし、環境全般に結局関わってくることになると思うので、脱炭素について今後確実に進めていくことが必要と考えています。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
栗原座長	<p>ありがとうございました。説明に対して質問がありましたらお願いします。分かりにくい部分もあると思いますけれども、どうでしょうか。</p>
服部委員 事務局	<p>この計画の見直しはいつ頃ですか。3年後くらいか？</p> <p>実はこれ以外にも色々な計画がありますので、それを全て合わせていく必要があると考えております。今のところ行くと、令和7年度には遅くとも確定したのものとして基本計画も見直していきます。ただ、まだ先の話でもあるので、その前段階で確定したのから順次変えていくという考え方もあるかと思えます。</p>
服部委員	<p>ありがとうございました。なぜかという、（基本計画の内容）全体に古いイメージがあります。</p> <p>ロードマップの方が今に近いというか、脱炭素に向けて真剣さが見えますが、基本計画に載っていることだと今までとあまり変わらない。計画の見直しの際にはロードマップなどに出ている姿勢が出てくると良いと思います。</p> <p>48ページの削減目標のところ、(CO2の)95%は削減して、5パーセントは吸収することでネットゼロということだと思いますが、全体として吸収源に対する施策が足りないのではないかと。表の一番下に「森林等による吸収量」とあり、また、「ゼロカーボン宣言」で、緑化の推進について強く仰っているのですが、緑化だけでは吸収源としては物足りません。町中に緑が増える、特に私は浮島の話をお聞きしていて、浮島に緑、サクラソウな</p>

	<p>どが増えることを市民の人に見ていただくのは本当に効果があると思います。ただ、吸収源としては、森林と、あとせっかく沼津市には海があるので、ブルーカーボンに対する施策をもう少し入れていただきたいです。ゼロカーボンに向けて、吸収源を森と海に拡大していく施策が重要と思います。</p> <p>静岡県でも、今年4月に第4次静岡県温暖化対策実行計画というに作成しましたが、早生樹やエリートツリーなど、発育の早い樹種を推進するなど、吸収源施策にはかなり力を入れています。脱炭素に向けて、沼津市の特性を活かしつつ吸収源を増やしていくようなイメージを持っていただくとよいと思います。</p>
事務局	<p>あと、事務事業編の目標というのは立てているのでしょうか。</p> <p>立てております。ただ国のゼロカーボン宣言の前に作っているものですから、そこも併せて見直しを行っていくところです。</p>
服部委員	<p>そうですね。事務事業編は市の姿勢として、市民の皆さんにも見えるところ。市のロードマップの「市の率先行動」という部分が大事ですね。</p>
栗原座長 事務局	<p>どうですか、市の方で、今の質問に対して。</p> <p>補足をさせていただきますと、市の事務事業について、令和3年度の結果で言いますと、平成25年度比で18%減となっております。ゼロカーボンを目指すのであれば、今18%しか減っていないものを100%まで持っていく必要があるということで、じゃあどうするんだというところで、当然環境部門だけで収まる話ではないので、公共施設を管理する課など、色々なところと連携し、最終的に2050年ゼロカーボンを目指すという方向性になると思います。</p>
栗原座長 事務局	<p>森林の話の方はどうですか。これからやるということでしょうか。</p> <p>(計画内容は)国と同じようなレベルで盛り込んでいますが、具体的に森林についてはあまり焦点を当てていなかった部分があると思います。</p> <p>少し話はズレますが、市では「沼津市景観と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例」を2年前に制定しています。主な理由は、伊東市、その後函南町でメガソーラー建設の話が出たときに、山を削って作るということがどうなんだと問題になった。その後の熱海市での土砂崩れの問題もありますので、単に見た目の問題だけでなく、市民への危険もあるということで、ある意味開発を規制する条例があります。我々が目指そうとする脱炭素に向かって、メガソーラーはある意味プラスですが、その反面、山を削るという行為は森林破壊にもつながりますし、両立させていく必要があるのかなと、課題になっています。</p>
栗原座長 渡辺委員	<p>他に何か、どうですか。</p> <p>東京電力の渡辺です。最後の表(ロードマップ)が出来上がると、かなり良いと思う。環境だけでなく、交通の部分や住宅、公共施設だとか色々関わるのかなと思っています。これは意見なのですが、他(部門)とも色々考えたうえで、実現性のある計画を、少し急いで計画を立てることが2030年の中間目標に近づくのではないかと思いますので、もう少しスピード感を持った方がよろしいのではないかと思います。と同時に、スピード感という部分では、48ページの削減目標に、2030年28%、2050年95%削減とありますが、(計画見直し予定の令和7年度から中期目標の2030年までは)5年しかないのに、先ほどご説明のあった沼津市はまだ削減量がだいぶ下の方。国が46%削減、目標として50%削減という話をしている中で、この目標に関しては、令和7年度を待つのではなく、今年または来年、早めに目標値を決めながらスタートを切った方がよろしいかと思います。そ</p>

<p>栗原座長 事務局</p>	<p>の辺のところをどのように考えているのかを聞きたいというのが一つ。</p> <p>あとは47ページの再エネ導入ポテンシャル量の中で、地中熱利用が一番多い。環境保全を考えながら太陽光と風力（を導入する）という話はあると思いますが、地中熱利用について、非常に難しいところとは思いますが、ポテンシャル調査の結果がこのように出ているという中で、今の沼津市の考えがお聞きできればと、それが2点目。</p> <p>最後に、市民にきちっと見せていく、やっている感をちゃんとアピールしていくというのが行政体や我々協議会に課せられていると思っていますので、そういったことを視野に入れながら取組みを、公共施設でまずどうするのか、では今度は企業に向けてどうアピールしていくのか、企業ユーザーが増えてきてから、それから市民に定着化させる、そういう順番かと考えていますが、それを踏まえてこのロードマップが出来上がると素晴らしいものになるし、優先順位とかスピード感が見えてくるのかなと思うので、その辺を一緒になって考えられたらと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
<p>石川委員</p>	<p>何か市の方からありますか。</p> <p>計画の更新に関してはできるだけ前倒しという形で。あとは地中熱の利用等については設備的な面があると思う。この利用については東電さん等とも検討したい。</p> <p>地中熱のところでは、令和2年度の県内の再エネ発電状況の一覧を見ていると、静岡県で1時間あたり771MW（を地中熱発電している）という数字があり、内訳として下田市の欄に771MWとあるので、静岡県で地中熱発電をやっているのは下田市だけということになると思います。具体的にどう発電しているのかは分かりませんが、もしかすると温泉などといったものを絡めてやっているのかと思います。</p> <p>それからポテンシャル量のグラフの中に「廃棄物系バイオマス」の項目があり、1,500kL/年という数字がありますが、今沼津市の方ではごみ焼却場の建替えを進めており、新しい施設ではごみ焼却発電をやることになるので、ここの数字は増えてくるかと思っています。</p> <p>脱炭素ロードマップに、徒歩や自転車への利用転換とあります。呼びかけは確かに大事ですが、沼津市の状況を見たときに、駅を中心は確かに自転車に乗りやすくなっていますが、私の住んでいる大岡地区や他の地区へ行ったときに、沼津市って自転車に乗れる環境にはなっていない。私はあまり車を使わないようにして、ほとんど徒歩か自転車で生活しています。オリンピックで自転車競技があり、関心を持っている方も増えていると思いますが、まちづくりの中で、自転車が乗りやすい環境を、色々なところと連携ながら作っていただけるとありがたい。シェアリングするというよりも、走れる場所がしっかりしていなかったら、皆さんが利用しないんじゃないかと思っています。</p> <p>それから、屋根の上で太陽光発電を進めるという話がありましたが、私が学校に勤めていた時に、各校の屋根で太陽光発電ができるようにということで、少しずつ（太陽光パネルを）付けてくださり、子どもたちの目に見えるようにということで、玄関で今どれくらい発電しているというのが（モニターで）見えるようになったのですが、ただそれはお飾りみたいにしか屋上にパネルを付けていない。だから給食室で少し水が使える程度ですし、充電もできないので、今あるものを使うだけでした。やるのであれば徹底して、公共施設でもっとしっかりした太陽光発電を行うことが大事だと思います。</p> <p>3つ目は緑化についてですが、公共施設の緑化をもっとやっていく必要があるのではと思います。建物壁面の緑化というものが、かなり効果があります。以前に平成建設の建物、本当にコンクリートだけみたいなのに庭を造っているのを見て、出来上がってくるのを見ていたら、確かにすごいなと思ったんですけど、私がビオトープに関心があったもの</p>

栗原座長	<p>ですから、色々な学校にビオトープを造ってきたんですけど、その効果っているんな生きもの、昆虫類を呼び込んだり、色々なことができるわけですが、もっとそれを徹底して公共施設で行っていくことが市民への呼びかけになるんじゃないかなと思いました。</p>
事務局	<p>だいぶ時間が経ってしまい、(議題が) もう1つあるものですから、とりあえずこのくらいにしておいて、次の議題「環境を大切に作る人づくり事業」について事務局の方からご説明いただけるでしょうか。</p> <p>「環境を大切に作る人づくり」という事業は、脱炭素社会をはじめ、沼津市が目標としていく社会の実現を目指して、市民や事業者の方々との協働を推進するというのが一つの側面。もう一つが市民の方々に対して環境問題に気付いて取り組むきっかけづくりを数多く発信していくという側面があります。あとは実際に「こういう取り組みを始めよう」という市民の方々に対する補助金という形での支援もメニューに入っております。</p> <p>市の内部的な事情ではあるのですが、今8月末ですが、今後沼津市として次年度の予算要求のタイミングを迎えるにあたって、来年度こういった環境教室のメニューをやっていくかというところで、皆様のご意見をお伺いすることができればと考え、議題として挙げさせていただいております。</p> <p>その前に、駆け足ですが、実際にどういう環境教育を行っているのか、ざっとご説明します。</p> <p>まず、「ぬまづ親子環境教室」というもので、対象を子どもたちに絞ったものです。こちらはららぽーと沼津さんが主催するイベントに、SDGsについて特集するブース出展型のものがあり、そこに相乗りさせていただき、クイズショーのような形で子どもたちに分かりやすく環境問題について伝えるといったイベントを開催しました。こちらについては温暖化防止活動推進センターさんも、(発電機のペダルを) 漕いで新幹線を走らせるといった体験型のブースを出していただいたこともあり、事前申込制で閉じた環境でやるような講演会よりも、多くの方々の目に触れることができたのではないかと考えています。</p> <p>もう一つの「ぬまづ環境教室」については、それこそクローズドな講演会になるのですが、今年はこれから始まるものです。計3回の開催を考えており、第1回、第2回に関しては9月26日と10月30日に開催が決まっています。こちらは広報ぬまづ9月1日号にて募集の開始をさせていただいております。家庭の省エネ化というテーマで第1回目を行い、第2回目にごみ問題と生物多様性を絡めて、東海大学海洋科学博物館の先生に講演していただくことを予定しています。また、第3回目は気候変動をテーマにしようかと考えておりますが、年明けに開催したいというところで詳細に関してはこれからというような状況です。</p> <p>他に何をやっているのかというところで、まずはアース・キッズチャレンジということで、アースライフネットワークさんと市内の小中学校と連携しながら、これからの世代を担う子供たちに対して地球温暖化防止活動としてできることを探してもらう活動を継続して実施しています。</p> <p>その次の2つは自然に関する意識啓発という内容で、「自然観察会」というもの。令和3年度から新たに自然環境保全事業をスタートしておりますが、今年度は昨年開催した浮島ヶ原での自然観察会を、参加対象を市内一般の方に拡大して2回目の開催をさせていただいたのと、それから新たに、人との関わりが密接しているということで、門池公園でも新規に開催をさせていただきました。</p> <p>「夏休み親子水生物観察会」については、沼津市が事務局を務めている別の協議会があ</p>

	<p>りまして、そこで基本的にはその川の水質を守ろうという目的があります。それは単なる薬剤を使った検査ではなくて、そこに暮らしている昆虫を採取することで、昆虫も環境によって生息する種類が違うものですから、捕獲体験をしていただきながら、この川の「きれいさ」というのはどのレベルに当てはまるのかを考えてもらうことで、自然への愛着とともに、河川をきれいに保っていこうという意識の啓発を行っております。</p> <p>最後の「出前講座」は、自治会や小中学校からの依頼に基づいて、こちらで用意しているメニューから講演させていただくものです。今年度は門池講演の自然観察会をやる前に、門池中学校さんからお話をいただき、沼津市の生物多様性について授業を1コマやらせていただくという連携をしています。</p> <p>このような中で、次年度に向け、特に「ぬまづ環境教室」について、環境問題は非常に幅が広いので、それぞれ分野を分けて何か考えていければ良いなと思っています。</p> <p>添付資料として表を付けておりますが、こちらは昨年度の本協議会で「皆さま何かいい案お持ちでしょうか」という形で照会をかけて、お答えいただいたご提案の一覧になります。「家庭の省エネ」や、「おうち整頓で始めるエコリサイクル生活」については実際に9月の環境教室で、整理収納アドバイザーの方をお呼びして、冷暖房効率のいい部屋づくりや、冷蔵庫内の整理整頓による省エネ化についてご講演いただくような形で反映しております。</p> <p>自然環境に関しても多くのご提案をいただいておりますけれども、それは水生生物観察会や自然観察会で、対象を子どもたちに合わせているのであまりディープな話はできていない状況ですが、そういったところでも反映させていただいているような状況です。</p> <p>こういった中での令和5年度、こんなテーマが良いんじゃないかというご提案があれば取り入れていこうと思っていますので、よろしく願いいたします。</p>
栗原座長	<p>ありがとうございます。時間も押してきておりますので、ご質問とご意見いっぺんに行こうと思います。何かございますか。</p>
芳野委員	<p>第1次環境基本計画で、エコリーダーやエコ活動コンテストをやっている、そのあとの第2次では、僕もエコリーダーさんがすごく大変な思いをしているのを見ていたので、あまり言うてはいけないのかもしれないですが、みんなで考える、みんなで意識するというようなものがトーンダウンしているのではないかという気がしています。</p> <p>(単発形式の)教室というのは、興味のある同じ方が繰り返し来ると思います。そうすると広く浅くという部分は弱くなってくる。逆にそうして意識が高まっていった人たちが、今度はリーダーとして環境問題を引っ張っていけるようなステップを作っておかないと、ただやっただけで終わってしまうような気がします。</p>
事務局	<p>まさに「ぬまづ環境教室」、講演会は単発形式でのイベントとなっておりますし、また多くの方に参加していただきたいということを考えると、敷居の低い内容で(ステップアップも無い)ということもあり、仰っていただいたとおりかと思えます。</p> <p>エコリーダー制度等は今はやっていませんが、他の啓発活動として、例えばSNSを使って環境に絡んだ投稿をしてもらおうとか、それも結局こちらで景品をご用意して、それで釣っているという部分もあります。あとは「エココツチャレンジ」というもので、一週間自宅のエコに取り組んで、それも応募するとプレゼントをもらえる形式ではありますが、そういったキャンペーンはしております。ですが恥ずかしながら、実際件数が来ているのかというと、そういうことはない。なので、イベントというものはもちろんありますけれども、もう一つのベースへのテコ入れというのもしなければいけないということ</p>

<p>栗原座長 服部委員</p>	<p>考えております。</p> <p>ほかにどうでしょうか。</p> <p>広く浅くというのも大事だと思いますし、それを経験した子どもたちをエコリーダーにしていく、ステップアップしていく、そういうやり方もあるのかなど。</p> <p>興味のある子どもたちは何回も応募してくる。その子供たちに、今度はステップアップしてもらいたいようなものがあったらいいかなと思いました。</p> <p>提案をいくつかさせていただきます。「災害から身を守れ」的な講座はどうでしょうか。例えば小学校のプールを使って、15cm、30cmくらい水を入れてそこを着衣のまま歩くような体験型講座です。</p> <p>沼川が氾濫して浸水したことを想定し、実際に起きるかもしれないということを体験した後、これがどうして起きているのかと考え、温暖化による気候変動問題へつなげていく内容です。</p> <p>あと、循環型社会というのも環境の大きい要素なので、食品ロス系の講座。ごみを出さないクッキングコンテストのような、環境問題に関心の薄い層の皆さんが楽しみながら、環境問題を考えるきっかけ作りになる内容が良いかと思います。</p>
<p>事務局 栗原座長 柳田委員</p>	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>柳田委員も色々やってらっしゃると思いますが、何かありましたら。</p> <p>第1次、最初の基本計画を作ったときから関わっており、それから数年間ずっと見てるのですけれども、本当にもう何とかしてくれと。</p> <p>沼津市環境審議会で、チェックしてくださいと言ったんですけれども、結局1回も審議されていない。チェックなしに済んでしまって、昨年の会議の時にも、温暖化の防止等について意見を出したんですけれども、それっきりになってしまっている。計画をチェックしていく、そういう（仕組み）を作っていただきたいと私は思います。</p> <p>審議会で意見を出させてもらったのですが、審議会は年に1回か2回くらいしかないんですよ。結局何も審議されずに、1年経っても結局最終的な結果は変わっていない。昨年出した意見を見られているか分かりませんが、10年前の第1次の計画と、第2次の計画（について意見を）出したんですよ。そういうのをちゃんとやっていただきたいというのが1つ。</p> <p>アース・キッズですが、子供に教えるのは非常に良いと思っていますけれども、ただ1回限りなんですね。アース・キッズをやった後のフォローアップを作ってくれないかなど。それだけでも違うんですけれども。やはり1回では、少ないのではという気がします。</p> <p>芳野先生が仰られた、エコリーダーのような、一般の人を対象として、自治会のようなところで集めて話をするような、そういう機会を是非作っていただきたい。関心がある人だけを集めて講座をやるというのは、関心のある人は何回でも同じ話を聴くが、関心のない人は（集まらない）。</p> <p>エコリーダーの人に個別にお願いして、地区でやっていただいたときには、その地区の方を集めていただき、それでエコリーダーの人、もしくは私も参加していた環境市民団体が講座をやりますよということを言ってましたので、その市民団体が担当して、お話をしていく、そういう機会を毎年作ってやってもらいましたけれども。</p> <p>やっぱりそういう、一般の人に話をしてもらいたいというのが大事なんじゃないかと思いま</p>

栗原座長	す。 自治会に環境担当は置かれていないのですか。前まで自治会の組織の中にいたはずですが。
事務局	今も環境美化指導員がおり、役割が若干変わりますが、今も自治会にお願いしています。どちらかという環境美化なので、まちのごみの問題がメインになるんですけども、ただここ数年コロナの関係で、自治会との連携も取りにくい状況にあります。何か自治会にお願いして、来てほしいというのがほぼここ3年くらいで止まってしまっているんで、自治会の方も逆に役割は与えられているけど一体何をやったらいいのか分からないという相談も実はあります。
	仰られたように、我々も興味のある人に最終的に（企画を）寄せてしまっているというのは大きな課題だと考えております。特に、自然観察会や水生生物観察会、これ全部子どもが対象なんです。子どもの場合学校があるので、学校にお願いをしてやってもらうというやり方、それから、親子水生生物観察会は夏休みなので、自由研究に使えるという部分があって来てくれる、そういう所で我々も安易に子どもを使っているという部分があるかという反省はあります。
	ただ一般の方については、この我慢を強いる省エネに対する嫌悪感があります。実は私も20年前環境政策課にいまして、その時にこのアース・キッズチャレンジを始めました。その時は家庭版 ISO という言い方をしており、各家庭にお願いをして、省エネ活動をやってもらうというもの。これが非常に人集めに苦労しまして、みんな嫌がって、最後はみんな同じ人をお願いすることになって、結局広がりなかった。
	その中でどうするかということで、アースライフネットワークさんから「こういうものを始めたい」という相談をいただいたもので、その時に学校で子どもたちに向かってやっとうこうと。ただ学校さんも、カリキュラムがびっしり入っていて、なかなか枠を取ることが難しい中で、総合の時間を使って割り込ませている。確かにフォローアップもすごく大事ですけども、なかなかそこまでこちらも行きつけていない。子どもたちは純粋にいろんなことを受け止めてくれるので、もっとちゃんと色々なことを教えていけば、行動につながって、結果その親とか兄弟とか、色々な子どもたちが色々なところにつながってくれるのかなという思いもあるのですが、単発のイベントになりがちなところは反省点として考えています。一番は先ほど仰ったような興味のない方々にどうやってアプローチをしていくか、何か創意工夫をして、違う要素を入れて人を呼び込んで、そこで教えていくというやり方が良いと思っているんですけども、その中で具体的などころがなかなか見出せない。おそらく沼津市民の大半の方がそういう（興味のない）方だと思われるので、その方々に向かってできる方法を模索中です。
栗原座長 芳野委員	最後に、1番と2番まとめて、どうしても言いたいということはありませんか。 1番目の議題で、実際には市民でやれることって少ないと思うんです。多分このゼロカーボンをやるには、技術的なブレイクスルーがないと無理だと思います。例えばエネルギーを物で蓄えるか、電気の形で蓄えるかのどちらにしても、大量に蓄える技術や装置がないと、再エネというのは結局は使えない、僕らが使いたいときに電気ができないという問題が起きてしまう。例えば電気を貯めるというところで、家庭で使えるような大型の蓄電装置というのはとても経費的に作れないと。そうするとやっぱり事業所とか、市とか、そういったところでまず大型のものを整備していったら、そこで蓄えてうまく全体のバランスを取ってもらわないと、各家庭で蓄えるというのは（難しい）。

<p>栗原座長</p>	<p>今後ゼロカーボンを最初の方でもっと進めていくためには、事業者さんとか公共施設さんの方でお金をかけていかないと、(進んで) いかないんじゃないかなと、それを考えてもらいたいと思います。市民の人には意識の啓発が1番大事だと思います。</p> <p>ありがとうございました。最後に、以前に新聞でアンケート調査の結果が出ていました。「環境問題に関心がある」という国民は60%だった。</p> <p>(脱炭素施策が) 進まないのはなぜかとの問いに「何をやっていいのかわからない」と、そこなんです。そこをどうやって見える化するか、どうやって可視化するか。行政の見える化は永遠の課題なのかもしれないが、そこははっきりやってほしい。KPI(重要業務評価指標)をちゃんとしてもらって、それに合うような施策を作ってもらって、それを行政は、これは市民、こっちは事業者、というようにきちんと分けて、市民の皆さまに分かってもらうような、例えば広報の見開きで(大々的に) やってもいいと思っている。やってほしいことを見える化することによって、市民の皆さんの活動につながるというように思いました。</p> <p>それから教育の問題ですけど、教育は今生涯学習教育って言うのですよね、生まれてから死ぬまで勉強しなさいというのが今の教育のベースですが、子どもに焦点を絞ってしまっているのではないかと思います。もう少し対象を広げてもらえないか。今聞いていると先ほどから問題となっているように、やりたい人は集まるけれどやりたくない人は集まらない。でも、それは違うと思います。沼津市市民意識調査の結果、環境に興味があると言った人は全体の80%いるのですよ。その80%を何でうまく使えないのかということ。インセンティブを与えるものを行政が作れば、来てくれる可能性もあるのです。そこをもっとちゃんと考えてもらいたい。</p> <p>それからもっと学校教育の中にも入り込んでいいような気がしますけどね。学校の中でも環境教育をやっていますけれども、それとタイアップする、連携するということも必要になってくるのではないですか。ここ(首長部局)だけで完結する必要はないような気がしました。</p> <p>まとめにならないかもしれませんが、皆さんのご意見を聴いて、そんなような気がしました。以上どうもありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。</p>
<p>司会</p>	<p>皆さまありがとうございました。時間が無くなってしまい、こちらとしても明確なお返事ができなかったところもありますけれども、私例えば環境教育の担当として、コロナ禍でなかなか体験型が難しいというようなネガティブな要素も多くあるとは思いますが、その中で、やめようというのではなくて、こうして皆さんの意見を聴きながら、やれること、新しいことを考えながら反映に活かしていければと思っておりますので、皆さま今後とも何卒よろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年あと1回、下半期に開催できればと考えておりますので、またアナウンスもさせていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>その時は具体的にこういうことを始めてみたい、ということ投げかけて、皆さんにそれにご意見を伺って、こうしたらどうかっていう、ちょっとそういうことも考えてみたいと思いますので、またご協力をお願いいたします。</p>
<p>司会 一同</p>	<p>それでは、これを持ちまして令和4年度第1回沼津市環境活動推進協議会を閉会いたします。ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p>